

かせのこ

2024. 8. 1

北松園風の子保育園
盛岡市北松園4-1-5
TEL 019-663-2217
FAX 019-663-2256
緊急時携帯
090-6502-0716

仲間と楽しく夏！

やってみよう！と、子どもたちのやりたい思いを楽しみな

なかなかあけない梅雨ですが、照りつける太陽と青々とした葉っぱが本格的な夏の訪れを感じさせています。子どもたちは、毎日セミの鳴き声にも負けないくらい元気な声で遊んでいます。先日のおとまり会の散歩で隣の公園でセミの抜け殻をなんと100個以上も発見。自然の豊かさと思議さを子どもたちと実感したひと時でした。この時期、熱や手足口病、ヘルパンギーナなど流行していますので暑さ対策をしながらも気を付けてすごしていきたいと思ひます。

園庭の畑では、きゅうり、トマト、ピーマンなど夏野菜がどんどん大きくなり毎日大収穫。山の畑では、ジャガイモが大豊作。そのまま食べたり、クッキングをしたりしておいしく味わっています。自分たちが丹精込めて育てた野菜の味は格別ようです。さて、たいよう組のキャンプでは、「あんなことしたい！こんなことも



つばさ組おとまり会。かまどでカレー作り。わ～おいしそう！



キャンプ。イワナの命いただきます。

ことがあふれ、キャンプに向け毎日様々なことを仲間と考えたり活動したり、時にはけんかもしながら取り組んできました。当日は、まほらの森を満喫。果敢にいわなつかみに挑戦したり、全身びしょぬれになりながら川遊びを存分に楽しみました。また、暗闇の中で見つけた無数の蛍。その光は神秘的な体験でした。時間を忘れどっぷりと自然に浸りながら五感をフル活用してきました。つばさ組のおとまり会では、たいよう組のキャンプに憧れを抱きながら、みんなで泊まりたいとスタート。「やまんばあさんとむじな」の絵本の世界を楽しみ、さらに膨らませ共有しドキドキの日々。本当はちよっぴり怖いけれど、友だち同士支えあひながら、わくわくが勝る一日になり、あつという間に朝をむかえました。行事を終えた子どもたちは、充実感と達成感にあふれ、また一回り成長

した姿を見せています。非日常の経験を通して、さらに仲間関係が深まった子どもたちです。

8月の予定

- 6日(火) 園開放
- 7日(水) 誕生会
- 8日(木) 夏まつりごっこ 避難訓練
- 21日(水) お弁当の日
- 22日(木) プール納め
- 23日(金) 松園ハイッ夏祭り
- 24日(土) 北松園夏祭り
- 30日(金) ひかり・つばさ たいようクラス懇談会
- 3日(火) 園開放
- 6日(金) つくしんぼ・すぎのこ・そらクラス懇談会
- 11日(水) お弁当の日
- 14日(土) 風の子大運動会
- 18日(水) 誕生会
- 20日(金) 子育て相談
- 27日(金) たいよう組姫神登山
- 30日(月) 姫神登山予備日

おめでとう

★8月2日・8日幼保連携型認定こども園盛岡大学付属幼稚園教諭の方々が乳児クラス中心に実習に来ます。
★8月19日～30日盛岡大学児童教育学科4年生が保育実習に来ます。よろしくお願ひします。



鳥屋部佳奈保育士が、結婚し、内藤佳奈保育士になりました。

8月は6日広島平和記念日、9日は長崎原爆の日があり、保育園でも6日に平和の集いを行います。子どもの安心・安全・健やかな成長発達には平和な社会があつてこそです。平和とは、命が大切にされること。日常を大切に生活すること。生きていることがすてきなこと。子どもたちと語り合いながら、平和な未来を手渡していきたいと思ひます。



「わらび座スペシャル歌舞ステージ」秋田芸能に触れ一緒に楽しみました。



ひかりピーマンマンの畑は、夏野菜大収穫です。



氷の中に素敵なお花。ひかり組氷パーティーだ！



わらび座を見た後は、早速「大館ばやし」ごっこです。「わっしょいわっしょい！」



新聞紙粘土でお団子づくり。たくさんできたよ。すぎのこ組



おくら、レンコンで野菜スタンプ。面白い形ができました。そら組

8月24日(土)北松園夏祭りが太陽公園で行われます。今年は約5年ぶりにたいよう組がステージ発表を復活！お時間のある方はぜひ足を運んでください！詳細は後日連絡します。

第63回 全国保育問題研究会 集会在北海道に参加して
「again 穠かな北の大地に集い、語り合おう、未来を紡ごう」をテーマに北海道で開催されました。
今年の全国保問研の集会は現地開催のみということで、全国の仲間たちが北海道に集まり、学び、語りあいました。
私は「認識と表現・美術」の分科会に初めて参加してきました。コロナ禍ではオンラインでの集会で子どもの作品などを実際に見たり触れたりできなかったのですが、今回は、子どもたちの作品が会場いっぱいにあふれていて、描く紙の大きさ、素材、子どもの表現する絵を目の前で見ることができました。
その作品がどのような保育実践の中で生まれたのか4つの提案から議論しあひ、子どもの絵や作品は豊かな経験から生まれるもの、子どもが描きながら話す言葉に保育者がしっかりと耳を傾けること(子どもの絵は聴くもの)、どんな作品にも子ども独自の思いがあり個性が光っているものなのだとこのことを学んできました。
伊藤 昌美

